

生活困窮者自立支援制度の概要

H31年度予算:438億円 R 2年度予算:487億円
R 3年度予算:555億円 R 4年度予算:594億円

R5年度予算案:545億円 + R4二次補正予算60億円(※)
※新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金等

包括的な相談支援

◆自立相談支援事業

(全国906福祉事務所設置自治体で1,388機関
(令和4年4月1日時点) 国費 3 / 4

〈対個人〉

- 生活と就労に関する支援員を配置し、ワンストップ型の相談窓口により、情報とサービスの拠点として機能
- 一人ひとりの状況に応じ自立に向けた支援計画(プラン)を作成

〈対地域〉

- 地域ネットワークの強化・社会資源の開発など地域づくりも担う

◆福祉事務所未設置町村による相談の実施

- 希望する町村において、一次的な相談等を実施 国費 3 / 4

◇アウトリーチ等の充実

- ひきこもりなどの社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方に対するアウトリーチなど、自立相談支援機関における機能強化 国費 3 / 4

◆都道府県による市町村支援事業

国費 1 / 2

- 市等の職員に対する研修、事業実施体制の支援、市域を越えたネットワークづくり等を実施

国費 10 / 10

◇都道府県等による企業開拓・マッチング支援事業

- 就労体験や訓練を受け入れる企業等の開拓・マッチング・定着までの一貫した支援
- ※ 農業分野との連携等地域の実情に応じた取組の促進

※ 法に規定する支援(◆)を中心に記載しているが、これ以外に様々な支援(◇)があることに留意

